

●2011年 年頭のあいさつ

町民主役の暮らしやすい町を目指して

日野町長 景山 亨弘



【画：奥田里美さん（下榎）画材：鉛筆】

革ですので、実現することを強く望みます。

さて、わが町におきましては、町財政が厳しい中にも少しづつではありますが良い方向に進んでいます。これも、皆さまのご理解と努力のたまものです。

現在、新年度予算を作成しています。少子・高齢化の進む中で、必要なものから順次実施するよう配慮しながら、若い人たちが安心して暮らしていただくための子育て支援、0歳児からの教育環境の整備など、生活に密着した公共投資に取り組みます。

また、人権を大切にして、町民主役の暮らしやすい町を目指していきます。

この1年が皆さまに幸多き年になりますよう祈念し新年のあいさつといたします。

新年明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いでの新春を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

12月31日から元旦にかけて、山陰地方では「三八豪雪」以来の大雪となり、各交通機関をはじめとして大きな被害をもたらしました。町では終日、道路の除雪に追われましたが、昨年度導入した「ロータリー除雪車」も出動し、その威力をいかに発揮すること

が出来ました。今年のスタートとしては、このように波乱な状況で、神社などへの出足は少ないものとなりました。

わが国の政治・経済も依然として厳しく、先行きの不透明な状況にあります。が、一日も早く、落ち着いた本来の姿にしていきたいと思っております。地域主権改革を進める努力がなされていきますが、具体的な姿が見えてきません。将来の国家像としては大切な改

●第10回まちづくり町民会議

農業、観光、地域振興など、 地域からまちづくりを進めたい

— 豊かな暮らしづくりのもとを考える —

まちの話題やこれからのまちづくりなどについて話し合う、日野町まちづくり町民会議（生田公恵会長）が12月9日、町役場で開かれました。

今回は、役場各課長が出席し、1年間の活動状況のまとめや意見交換を行いました。その主な内容についてお知らせします。

活動報告

▼防人隊の活動について

4月4日に上菅の井手掃除を行い、7月10日に別所の草刈りを行った。町民会議委員やボランティア、学生人材バ



防人隊（別所地区）大勢のボランティアが参加

ンク、地元住民など多数が参加した
反省点は、2回しか実施できなかつたこと。地域に声をかけても引き受けてもらえなかつた。もっと積極的に声をかける必要があつた



ふれあいまつりでコンテストを開催

▼つけもの百人会について
ふれあいまつりや公民館まつりでコンテストを行うなど活動を始めた。認知度を上げ、正式に組織を立ち上げたい

▼農地レンタルについて
県や町と相談。県との研修会を計画予定だったが実施できなかつた

▼観光振興について

ラフティングについて、夏場の実施に向けて、漁協と話し合いを行った。今後も観光振興としてつなげていきたい

▼町民会議視察研修について

今年の10月13日にごみ問題に関する視察研修を実施。伯耆町のリサイクルプラザ、生ごみの液状肥料化の開発を進める北栄町の北興産業を視察



視察研修（リサイクルプラザ）

▼中山間地域リーダー養成研修について

県主催の研修に参加。広島県安芸高田市で若者定住など視察研修した

若者定住には、働く場所や住居など 受け皿の整備が必要

意見交換

【主な意見】

▼ごみの問題について視察に行つたリサイクルプラザで、リサイクル処理を見て、ごみを出さない生活を考えた。子どもたちから学習させる必要があると感じた

▼ごみ問題は減量も大事だが、一方で山間部には大量のごみが捨ててある。リサイクルの周知徹底について

▼オシドリ観察小屋付近にごみが流れてきた。今は、昔のように焼くことも禁止されている。ごみの処分方法について分かりやすく知らせてほしい

▼婚活事業は、農業や産業などの働く場所、住居など受け皿を同時に整備しないと、結婚しても都市部に流出する可能性がある。結婚アドバイザーなど、町外の取り組みを参考にしてはどうか

▼県外では、市が入居者の希望を取り入れた住宅を建てて、20年居住すれば安価で払い下げるといふ取り組みがある。小学校を存続する効果がある

▼自分も農業の担い手。山間部にある農地の依頼を受けるが、採算が合わないため、引き受けることができない。米の販売方法が課題。「日野町産」の名前を残すことも一つの方法だ

▼漬物の販売手段として、米と合わせた販売方法を考えている

▼一人暮らしの高齢者が違う世代と交流する場を作つてほしい

▼町にUターンで帰ってきた人たちの子どもは、日野町が実家ではないから帰つてこない。若者定住のためには、働く場所や住居など整備が必要

▼まちづくり町民会議に出席して、町のこといろいろと分かつた。自分たちの世代が頑張らないといけない。次期も委員として参加したい



「この町が好き」
それぞれの思いを語り合う